

TOPIC *prompt report*

必読!

医療従事者のための 新型インフルエンザへの具体的な対応 —冷静で適切な対応のために何が必要か?—

【ブタ由来インフルエンザ A (H1N1)】

国立感染症研究所 感染症情報センター 主任研究官 森兼啓太

2009.5.19 追加コメント 「国内発生を受けて」

ついに国内発生事例が確認された。

しかも、複数個所での集団発生という形である。この集団発生は当初、「季節外れの季節性インフルエンザの流行」とされ、学年閉鎖に至ったのちに、たまたま遺伝子検査で見つかった。検疫による水際対策に目を奪われ、国内におけるインフルエンザの不自然な流行を誰も新型インフルエンザと疑うことができなかったわけだ。

これらの症例には概して海外渡航歴はないので、これらの症例に伝播させた本当の国内初発例は 1 週間以上前にいたはずであり、現在国内にすでに何千例という患者がいてもまったくおかしくない。

検疫に目を奪われ、国内の状況に目を向けなかった過ちを繰り返してはならない。つまり、今後は関西地方への旅行歴に目を奪われないようにしなければならない。すなわち、**日本中どこでも新型インフルエンザの患者が発生しうる、どの病院にも今すぐふらっと新型インフルエンザの患者が来院することがある、という認識を持つことが大切である。**

そのためには、**すべての医療施設で、入り口でのインフルエンザ様疾患（発熱、咳、くしゃみなどが指標になるだろう）のスクリーニングを行い、有症状者はそれ以外の患者となるべく離すことが必要である。**しかしこれは、季節性インフルエンザへの対応として、毎年冬にどここの医療施設でもこれに近いことをやっているのではないだろうか。それほど難しいことではないと考える。

新型インフルエンザの診療は、各地域で定められた方法で行うことが大切である。行政の発出する情報を随時入手し、準じた対応を検討してほしい。

*本記事の無断引用・転載を禁じます。